

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902716		
法人名	株式会社北海道クオーレ		
事業所名	グループホームせせらぎ I B棟		
所在地	旭川市永山4条4丁目9番1号		
自己評価作成日	令和5年6月20日	評価結果市町村受理日	令和5年9月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、協力医療機関の東旭川病院へ通院し体調の把握に努めている。それ以外にも体調不良があった時は受診出来るように連携を取っている。24時間看護師と連絡が取れるようになっており深夜でも指示をもらったり、緊急時には施設に駆けつけてくれる体制になっているため、利用者様や職員が共に安心して過ごすことが出来る。町内の方と交流を持つようにして緊急時には協力いただけるようにしている。地域の憩いの家の鍵を預かることでほぼ毎日地域の方が施設に来られるため、職員と顔見知りになり自然と関係性を深めることが出来ていて地域とのつながりを絶やさないようにしている。外出は利用者様の体力に合わせて近所を散歩したり、季節ごとに車で遠方にも出かけるように努めて楽しみ事のひとつになっている。食事も季節の行事やイベントなどにあわせて献立を作り、月に1度はレクリエーションとして共に作り食べる楽しみも感じてもらえるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192902716-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和5年7月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に職員全員で理念、理行を唱和して職員間で共有、業務に活かすように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事など参加していたが、町内会の活動が縮小となり、行事がなくなり今は参加出来ていない。町内会に入会して繋がりが途切れないように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談窓口を表示して地域の方がいつでも相談できるように努めているが今年度は地域の方に向けての活動が実施出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防対策のため今、現在は施設での開催を行っていないため各委員の方々に書面で報告して意見を頂き、サービス向上に活かしている。頂いた意見は次の運営会議で必ず報告させて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方々と連携を図り、会議での情報共有を行い、事業所の空き状況や地域で行方不明者が出た時の捜索の協力や緊急連絡網で関連施設との協力体制を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止検討委員会を設けて2か月に1度職員会議で話し合いを行っている。又、身体拘束の研修を行い職員の正しい理解を深める努力をしている。施錠に関しては防犯上の理由から警察より夜間だけは施錠するよう指導を受けて施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止推進研修を必ず職員に受講してもらい、職員会議で報告してもらっている。2か月1度の職員会議では日常のケアの中で虐待が行われていないかを話し合い検討をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度はコロナウイルス感染予防対策のため外部研修が中止または行われていないため受講できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、質問や疑問に答えながらご家族に理解してもらえるように努めている。契約後にも不安や疑問がないか機会があれば尋ねるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪された時や電話での近況報告時などに希望や要望を聞かせてもらって運営に反映させている。又、玄関に意見箱を設置して要望の集約に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1度の職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。その他にも日常的に意見が上がって来たらその都度カンファレンスなどを行い業務などの改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握してコミュニケーションをとりながら休み希望が取れるよう勤務調整をしている。また、各自のスキルアップを支援して講習や受験に取り組めるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルス感染予防対策でまだ一部の外部研修が中止または行われなため、ウェブ研修や施設内研修を行って職員個々がケアの向上やスキルアップ出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はまだコロナウイルス感染予防対策のため外部研修などが積極的に行われず同業者との交流する機会がなくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面会や入居時に本人やご家族様より普段の生活リズムを聞きながら施設での生活で困ることや不安なことを聞きながら、安心して過ごせるよう配慮しながら話しやすい環境づくりに努め、信頼関係をつくるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、ご家族様、医療機関、介護事業所等から生活状況、既往歴等の情報収集に努め、ご家族様の不安なことや要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族様、医療機関、介護事業所等から生活状況、既往歴等の情報収集に努め、必要としている支援を見極めて対応に努めている。コロナウイルス感染予防対策のため面会の制限があるため、こまめな状況報告も行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんが出来ることと出来ないことを見極めて日常生活行為を共に行い過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防対策のために直接面会が出来ない状況で、オンラインを活用したり玄関でガラス越しに会ってもらい、本人やご家族様の絆を大切に本人を支えていく関係に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防対策のために外出やご家族との面会、馴染みのある人や場所に行くことが出来なくなっているため、ご家族様が施設に来られた時は必ず顔は見てもらい、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士では揉めてしまうことが多いため、職員が間に入って会話したり、傍で見守りをしてそれぞれに関りが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にもご家族様の必要に応じて相談や支援が出来るよう経過をフォローして相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が毎月のモニタリングやアセスメントを行い、本人の意向や希望の把握に努めている。困難な場合は日々の会話や行動、表情などから汲み取り本人の気持ちに寄り添えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族から生活歴や環境、認知症になってからの生活状況などを詳しく聴き取り、居宅のケアマネジャーや相談員からも情報を得てこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護日誌に一日の過ごし方や心身の状態を記録して職員間で共有して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月交代制でモニタリングを行い、職員の共通認識を高め現状に合ったケアが出来るように努めている。本人や家族にも意向を伺いながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々の様子やケアの内容を記録して毎日の申し送りでも情報共有を行っている。日々のリーダーが介護計画の実践の点検を行い、毎月のモニタリングで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の生活変化に応じて生まれるニーズに対応しながら可能な限り柔軟な支援やサービスに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児との交流、地域の祭典、近所への買い物や散歩など地域の一員として暮らしを楽しんでいけるよう今年度から徐々に感染予防を行いながら出来るように努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医と連携とりながら状態に応じた適切な医療を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々のかかわりの中で気づきや情報を職場内の看護師に相談して個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療できるよう医療機関に情報を提供して早期退院できるよう定期的に病院関係者や家族と情報交換や相談に努めるようにして関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの説明をして希望を聞いている。重度化した場合や終末期のあり方は早い段階から家族と話し合いをして事業所で出来ることの説明をしながら支援の方法を共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて年に一度は救急救命の講習を受講して行けるよう計画を立ててマニュアルを作成して職員間で共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防設備会社の方立会いの下、日勤帯と夜間帯の想定で消防避難訓練を行っている。コロナ感染予防対策で地域の方の参加は出来ないが近所の方と交流を絶やさず協力体制を築いている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損なわないような言葉かけに努めている。2か月に1度の職員会議で職員の言動を振り返る機会をつくり次に繋がるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いが表せるような雰囲気作りや声かけを心掛けている。自己決定出来るような働きかけをして工夫に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にその日の体調や気持ちに寄り添い、過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったその人らしい洋服と一緒に選んだり、デイルームに来られる時や午前中に身だしなみを整えるように配慮しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の献立や食材を使い食事が楽しめるように工夫している。又、一人ひとりの食事形態も配慮して食べれないものがあれば代替えて食べてもらっている。食後は片付けや食器拭きなどもしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が食事量、水分量を介護日誌で把握しながら一日を通じて水分確保出来るよう努めている。一人ひとりの摂取状態や好みに応じた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを声かけや見守りをしながら行ってもらう、必要に応じて介助して一人ひとりの口腔状態や本人の力の把握に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間や回数を記録から把握して生活パターンに合わせてトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状態を記録して便秘にならないように水分摂取にも注意して予防に努めている。毎日の体操で腸の運動にも働きかけているが、それでも便秘する時は下剤でコントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、一人ひとりの体調や気分に応じて時間や日にちをつらすなどの工夫をして入浴できるように支援している。体調で浴槽に入れない時はシャワー浴や清拭に変更している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせた衣類や寝具や一人ひとりの部屋の温度、湿度、明るさをその時々状況に応じて変更して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬している薬の内容や副作用などを理解して薬の処方日には用法、用量に変更がないか確認している。又、本人の服用時の様子の変化も観察してトロミ剤などの使用の工夫もやっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来ることを把握して出来そうなことを職員と共に行ったり、お手伝いをしてもらい日常生活の中で役割や気分転換をしてもらい、その人らしい暮らしの支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの前は希望に沿った外出を支援していたが、今はコロナ感染予防対策を行い状況をみながらドライブに行ったりして出来るだけ戸外に出掛けられるよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば家族と相談しながらお金を所持出来るように支援している。コロナ感染予防対策でまだ買物は職員が代行して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも家族や友人などにかけられるようになっており、携帯電話を持っていない方は施設の電話を職員が手伝い連絡出来るように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で利用者同士で会話したり、テレビを見たり出来るようにソファの配置などを工夫している。デイルームで過ごしてもらう時は音や光、温度などに配慮して居心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では一人ひとりの時間が過ごせるように座る位置やトイレでゆっくりと用が足せるように配慮して利用者同士が思い思いの時間が過ごせる工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には居室に使い慣れた物を持ち込んでいただき、馴れ親しんだ置物、写真、小物を活かして本人が心地良い空間で過ごせるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーの床と廊下には高さの違う手すりを設置して自力歩行が出来るように配慮している。居室の前に印をつけたり、トイレの表示を大きくするなどして出来るだけ一人で出来るように工夫している。		